

海軍

昭和七年十二月 竹井精

舎及使用器材等ハ毎日消毒ヲ行ヒ係員ハ鳩舎出入都度
 全身消毒ヲ勵行シ一方病鳩ニ對シテハ毎日數回過酸化水
 素水、食塩水等ニテ患部ヲ消毒シ次デ稀釋次度丁幾ヲ
 塗布スル等凡ユル防疫手段ヲ講ゼシモ尚石表ニ示ス如キ結
 果ヲ以テ發病後二ヶ月餘ニシテ漸々終熄セシメ得タリ
 尚當時病鳩發見ヨリ約十日間ニ至ル經過次ノ如シ

摘要

用 日	發病 死七 全治 病鳩 死七 全治	鳩數 （廣金） 鳩數 （廣金） 累計 （廣金） 累計	四、 一、 二、 三、 四、	五、 一、 二、 三、 四、	五、 一、 二、 三、 四、
五	五	一	六	六	二
四	七			六	一
三	七			三	一
二				六	一
五	五	二	六	六	二

「ミユゲ」ノ徴候アリシヲ以テ直ニ病鳩舎ニ收容
 四月三日
 鳩点検ノ結果上記ノ病鳩發見各鳩舎大消
 毒ヲナス
 四月五日
 四重病鳩中過半重症トナリ、症狀ガフテリヤ
 ニ似タルヲ以テ横空病室ニ於テ病菌ノ検査ヲ行

海軍

昭和七年十二月 竹井納

海軍

昭和七年十二月 竹井納

離シ病鳩ニ對シテハ毎日過酸化水素水ヲ以テ咽喉ヲ消毒シ次デ稀釋
 次度丁熱ヲ塗布セリ、尚重症鳩ハ絞殺焼却セリ

斯ノ如クシテ一旦終熄セル如ク見エタルガ月餘ニシテ再發シ残鳩
 ノ大部ヲ襲ハレ極力防療ニ努メタルモ飼育鳩數ノ約七割ヲ失ヒ
 テ漸ク終熄セシメ得タリ、

二、發生ノ原因

横空、馬防共ニ發生ノ原因明確ナラザルモ當時ノ狀況ヨリ判断
 シ次ノ事項ハ各ニ感染ノ原因ト認ムベキ疑アリ

- (一)横空ニ於テハ約三週間ニ亘リ一鳩舎(移動式小型鳩舎ニテ兩
 露ニ對スル設備充分トハ云ヒ難シ)ヨリ鳩ヲ交互ニ數日間宛
 民家(辻堂)ニ宿泊セシメタルモノ先ツ發病シ數日後隣接セル
 二個ノ鳩舎(前記鳩舎ヨリ約十五米突ヲ隔テタル固定鳩舎)
 ニ感染シ更ニ數日ニシテ遂ニ全鳩舎(合計鳩舎五鳩舎ハ)ニ

海軍

昭和七年十二月 竹井納

傳播シ折柄ノ霖雨ハ一層之ガ誘發ヲ助勢セシメタリ
 (二)馬防ニ於テハ十一月下旬雌雄分離中星印アル雌鳩一羽飛
 来セルヲ以テ一時同隊雌鳩ト共ニ收容保護セルコトアリ又此
 ノ鳩舎ハ粗糲ニシテ採光換氣モ良好ナラズ且ツ降雨ノ際ハ
 雨漏リ等アリテ衛生上遺憾ノ點多シ尚同地方ハ一般ニ湿
 氣多ク殊ニ當時ハ曇天勝ニテ雨量モ多ク鳩室内ノ湿氣
 一層甚カシク益々本病ノ誘發ニ拍車ヲ加ヘタル感アリ

第十章 軍鳩術教育

第一節 教育制度

教育制度ヲ確立シ准士官以上教育及下士官兵教育ニ分テ実施スルヲ要ス

一 准士官以上教育

軍鳩系タルベキ將校・特務士官准士官ヲ年一回各飼育廠ヨリ一名宛教育機關ニ召集シ之ニ約二週間軍鳩術短期講習ヲ課ス

二 下士官兵教育

毎年一回各種練習生ニ準據シテ選拔採用シ少ナリトモ四ヶ月間軍鳩術教育ヲ施シタル後之ニ修業徽章ヲ付與シ各隊軍鳩員トシテ配員スルヲ要ス

現在過度的手段トシテ畧毎年一回各飼育廠ヨリ下士官兵

一 概況ヲ(昭和八年度ハ特ニ各鎮守府ヨリ准士官以上計四名ニ對シ十日間軍鳩術講習施行)軍鳩基礎機關ニ召集シ之ニ四十日間軍鳩術教育ヲ實施シツ、アルモ教育ノ完璧ヲ記セシガ爲ニハ教育制度ヲ確立シ本格的ニ教育ヲ實施スルヲ要ス尚軍鳩基礎機關ニ於テハ部内ニ軍鳩通信ヲ紹介シ且各飼育廳軍鳩員ニ對スル軍鳩術教育ノ一助トシテ昭和八年三月以降軍鳩月報ヲ發刊シ之ヲ關係各部ニ送付セシ外時々參考資料ヲ配布シテ斯術ノ向上ニ努メツ、アリ

第二節 軍鳩術講習實施經過茲所見(昭和八年准士官以上昭和九年下士官兵)

一 准士官以上ノ部

1. 實施經過概要

(一) 講習員計四名

(横團少佐一、横防特務少尉一、吳防特務中尉一、佐防兵曹長一)

(一) 期間 昭和八年十月十八日開始 同 年十月二十七日終了 計十日間 (三) 實施セル教育事項 座學時間合計三十二時間 座學之部 軍鳩基礎機關ニテ編纂セル海軍教科書草案迄 諸研究資料ヲ教材トス					海 軍	
科	目	細	目	實施時間 (時一分)	記	事
鳩通信沿革概要	我が陸海軍ニ於ケル軍鳩ノ歴史 現狀及民間鳩ノ現狀	鳩通信發達ノ經路	〇一三〇			
軍鳩通信能力概要	軍鳩通信ノ長所特質及缺點 陷軍鳩通信精度		〇一三〇			

昭和八年七月 大倉納

鳩ノ形態	鳩體構造及官能	鳩記號	便鳩用語	管理飼育	外觀並各部ノ名称 傳書鳩ト土鳩トノ見分ケ方 雌雄鑑別 優秀鳩ノ外觀容姿 鳩審査法 翼羽、尾羽、羽毛消化器系、 呼吸器系、眼、 翼記號、足輪記號 鳩通信、飼育訓練、鳩體、 鳩舎器材等ニ関スルモノ 鳩舎ノ種類、構造及性能 常品器材ノ様式 飼糧ノ種類、配合、検査精選 土鳩作製法	一。 一。 一。 一。 六。	主トシテ實物ニヨ リ説明セリ 尚別ニ實業ヲ課ス 實物及畧圖ニ就テ就 明セリ尚中野見學時 ヲ利用シ解剖一回施行
				所要ナル事項ナルヲ 以テ詳述セリ			

海軍

昭和八年七月 大倉綱

鳩ノ帰巢能力	訓練法	便用法	蕃殖法	
鳩ノ帰巢性、飛翔遠力 各種鳩舎ニ於ケル實用距離	馴致、出舎、舎外飛翔、放鳩 訓練、晝間鳩舎、夜間鳩舎 船上鳩舎、移動鳩舎 往復鳩舎、各訓練法	鳩ノ保持法、輸送（携行）法 信書作製及結着	親鳩ノ選擇 交配準備（雌雄分離ノ意義 其時機及期間） 交配（意義、時機及期間） 産卵、孵化、育雛、巢立	
三 一 。	七 一 。	一 一 。	二 一 。	
我海軍ノ實驗ニ基 キ根本的ニ説明セリ 最重点ヲ置キテ 説明セリ 尚別ニ實業ヲ課ス	別ニ實業ヲ課ス			

海 軍

昭和八年七月 大倉納

鳩ノ換羽	換羽ノ時機並順序	一〇	海軍
鳩通信ト氣象トノ關係	換羽中ノ軍鳩取扱使用並手當法 氣象ノ変化ハ鳩ノ能力ニ及ボ ス影響	〇一三〇	
軍鳩通信戰務上ノ意義	通信ノ要旨、信書ノ處理	〇一三〇	
記録及報告	鳩舎諸記録、軍鳩月計報告 研究實施成果報告	二一〇	
鳩舎器材取扱保存法		一一〇	
軍鳩員教育	軍鳩員ノ日常勤務監督指導 軍鳩術向上法	二一〇	
鳩舎衛生	衛生ノ本領、鳩ノ検査法 疾病及療法(傳染病、呼吸器)	二一〇	
別ニ實業ヲ課ス 尚中野陸軍鳩舎見			
重点ヲ置キ説明セリ			

昭和八年七月 大倉納

實業部		海軍	
調教	舍外飛翔	病、消化器病、神經病、産卵異状	
	呼込	運動器病外傷	
給餌法	晝二回 夜一回 實施セリ	害蟲及其驅除法、鳩藥品、用法	
		二回の衛生ニ関スル説明ヲ聴取セシメタリ	
鳩ノ心理觀察	二回	學時ヲ利用シ鳩舎	
近距離(五十科以内)ニ於テ晝夜間六回	放鳩訓練、鳩輸送管理等ノ實習ヲ兼ネ左記箇所ニ各一回宛(主トシテ鳩舎見學)		
放鳩訓練見學時ヲ利用シ合計五回			
病鳩ナカリシヲ以テ手續ノミ實施セリ			
鳩輸送管理法			
病鳩處理法			

昭和八年七月 大倉納

見

學

東京中野陸軍々用鳩調査委員事務所

東京朝日新聞社

横須賀海軍航空隊

口所見

(一) 今回ノ講習ハ幹部タル准士官以上ニ對シ軍鳩術教育ヲ施行スルト共ニ將來軍鳩員ノ監督指導者トシテノ教育ヲ實施セリ

講習中各員ハ旺盛ナル研究心ヲ以テ極メテ熱心ニ勉學シ修得シタル處多クニシテ所期ノ目的ヲ達シ得タルモノト認ム

(二) 軍鳩通信ノ成果ハ擔任者タル幹部ノ軍鳩ニ對スル理解ノ程度ニ左右セラルコト甚大ナリ。今回ノ講習ニ於テ幹部ノ修得シタル事項ハ將來軍鳩通信發達上資スル處極メテ大ナルベク今後引續キ毎年一回此種講習ヲ實施スルヲ可ナリト認ム

(三) 講習期間ハ二週間トスルヲ適當トス

海軍

昭和八年七月 大倉納

二、下士官兵之部

1. 實施經過概要

(一) 講習員計十四名

佐防、舞防ヨリ各下士官一、呉防、大防、鎮防、馬防、横空、霞空ヨリ各兵一、横防ヨリ兵四及依頼ニヨリ横團、兵校ヨリ各兵一

(二) 期間 昭和九年一月十八日開始

四十日間

同 年二月二十六日終了

(三) 實施セル教育事項

座學之部

座學時間八十時間

軍鳩基礎関ニテ編纂セル海軍便鳩教科書草案

其他諸研究資料ニ教材トス

科目	細目	實施時間 (時—分)	記事
鳩通信ノ始期並發達ノ経路			

鳩通信ノ沿革概要	我陸海軍ニ於ケル軍鳩ノ歴史 並現状	一〇	
軍鳩通信能力概要	軍鳩通信ノ長所特質及缺點 軍鳩通信精度	一〇	
鳩ノ形態	外貌並各部ノ名称 羽色、翼羽、尾羽、羽毛 傳書鳩ノ特質優秀鳩ノ外 觀容姿雌雄鑑別	二〇	實物並畧圖ニ就キ 教育セリ
鳩体構造及官能	各翼羽尾羽骨格消化器系 呼吸器系生殖器眼	五〇	淘汰鳩ヲ利用シテ二回 實地ニ解剖ニ施行セリ
鳩記號	翼記號 足輪記號	一〇	別ニ實業ヲ課ス
使鳩用語	鳩通信飼育訓練鳩体 鳩舎器材等ニ関スルモノ	一〇	

海軍

昭和八年七月 大倉納

	訓練法	鳩ノ能力	管理飼育
動・往復）ノ訓練法	各種鳩舎（晝間、夜間、船上、移延伸訓練、保能訓練、放鳩躍進度）	鳩ノ帰巢性、飛翔速力、各種鳩舎ニ於ケル實用距離	鳩舎ノ種類構造、性能、保存法及鳩舎設計圖 各鳩舎ニ於ケル鳩收容標準 需品器材ノ様式並取扱保存法 飼糧、種類、配合、検査、精選及保存法、土塩作製法
	一三〇	六一〇	七〇
課ス	尚別ニ毎日實業ヲ セシ處ナリ	我海軍ニ於ケル實驗ニ基キ詳述セリ	最肝要ナル事項ナルヲ以テ詳述セリ 尚別ニ毎日實業ヲ課ス

海軍

昭和八年七月 大倉納

使用法	蕃殖法	諸記録	鳩ノ換羽
鳩ノ保持法、籠内出入法、輸送(携行)法、信書作製及結着、輸送(携行)中ノ注意事項	親鳩ノ選擇、交配準備(雌雄分離、意義、其時機及期間)、交配(意義、並時機期間)	鳩舎日記、鳩名簿、鳩經歷簿、交配記録、産卵孵化簿、仔鳩名簿、放鳩成績表、軍鳩通信記録、月計報告	換羽ノ時機並順序、換羽中ノ ^軍 鳩取扱使用並手當法
四一〇	七一〇	五一〇	三一〇
別ニ實業ヲ課ス	實地ニ雌雄分離並交配ヲ施行セリ	別ニ實業ヲ課ス	

海軍

昭和八年七月 大倉裕

氣象學概要		軍鳩通信戰務大意	服務心得	軍鳩員	鳩舎衛生
高氣圧、天氣圖、天氣豫知法	霧、雪霜、露、電光、雷、低氣圧	大氣、氣溫、濕氣、氣圧、風、雲、雨	通信ノ要旨、信書、處理、飛翔速力、計算、飛翔經路推斷	日常鳩舎勤務、記録整理	衛生ノ本領、鳩ノ検査法 疾病及療法(傳染病、呼吸器病、消化器病、神經病、産卵異常、運動器病、外傷) 害蟲及其驅除法、鳩藥品用法
六―〇		二―〇	五―〇		六―〇
ニ説明セリ	要ニ付要點ヲ簡潔	勤務上氣象ノ知識必	別ニ實業ヲ課ス	掌鳩者ノ精神指導ハ極メテ大切ナルヲ以テ特ニ力説セリ	病鳩ヲ利用シテ毎日實業ヲ課ス 尚傳染病豫防トシテ鳩ニ對シ「フーヤ」血清豫防注射一回施行セリ 掌鳩者ノ精神指導

海軍

昭和八年七月 大倉納

實業ノ部		海軍	
鳩舎勤務	座學ニアラル時間ヲ充當シ毎日實施セリ 歸還鳩見張通信處理(晝夜間) 鳩舎内、調教、觀察、舍外飛翔及給餌法(晝夜間) 諸記録整理、飼糧並器材ノ保存手入一般 消毒法、鳩記號(翼記號、足輪記號)	鳩通信ト氣象ト關係	晴雨計、寒暖計、天氣風雲ノ符號 天候ト鳩ノ能力ト關係 氣象、變化ニ處スル軍鳩員ノ決意
放鳩訓練	放鳩訓練、見學時等ヲ利用シテ合計十五回 近距離(五十軒以内)ニ於テ晝夜間放鳩合計十五回(内廣通係)	鳩踰送管理	
病鳩處理法	罹病鳩ヲ利用シテ毎日實施セリ		

昭和八年七月 大倉納

海軍

昭和八年七月 大倉納

見學

放鳩訓練、鳩輸送管理等、實習ヲ兼ネ左記箇所ニ各
 一回宛（主トシテ鳩舎見學）
 東京市中野町陸軍々用鳩調査委員事務所
 東京朝日新聞社
 東京府下蒲田區六郷町松本新太郎氏宅（ビジョントイムス社）
 横須賀海軍航空隊

口所見

（一）今般ノ講習ハ初級軍鳩員ニ對シ軍鳩術一般ニ亘リ教育ヲ施行スルト共
 ニ日常直接軍鳩員ノ監督指導ノ任ニ當ルベキ鳩舎長ニ對スル教育
 ヲモ施行セリ

（二）講習期間各員ハ極メテ熱心ニ勉學シ旺盛ナル研究バヲ以テ實習ニ
 從事セリ、修得シタル處大且其成績總シテ良好ニシテ所期ノ目的ヲ達
 シ得タルモノト認ム

(三) 講習期間ハ四十日ニシテ軍鳩術教育ノ完璧ヲ期センハ尚期間ノ短キヲ憾ム、最小限度四ヶ月ヲ要スト認ム、

蓋シ軍鳩ハ生物ニシテ季節ニ依リ取扱管理法ヲ異ニスルノミナラズ軍鳩術教育上最肝要ナルハ如斯鳩舎ヲ管理シ如斯鳩ヲ調教・訓練スレバ其成績ハ如斯シト言フ實際ノ經過ヲ實物ニ就テ教授スルコトナリ、故ニ將來教育制度確立ノ上ハ軍鳩員ノ教育養成ハ最小限度四ヶ月ヲ要スルモノナリト認ム

(四) 軍鳩通信ノ成果ハ之ヲ掌ル軍鳩員兼ノ能力ニ俟ツ所甚大ナリ故ニ各部隊共其人選ニ當リテハ慎重ニ考慮ヲ要ス

蓋シ軍鳩員日常ノ勤務ハ一々上官ヨリ詳細ナル直接指揮ヲ受クルコトナリ、自ラ全責任ヲ以テ晝夜間ニ亘リテ鳩舎勤務ニ服シ此間鳩ノ心理觀察ヲナシツ、教多ノ鳩ノ調教指導ヲ掌リ且ツ各種ノ記録帳簿ヲモ整理スルモノナルシ以テ相當普通學ノ素要ト明晰ナル頭

腦ヲ有シ且責任觀念強ク注意周到、勤務精勵、体格強健、志操堅實ナル人物ヲ選定スルヲ要ス

第三節 軍鳩術競技

軍鳩基礎機關ニ於テハ軍鳩員ノ士氣ヲ鼓舞シ斯術ノ研究向上ヲ計リ次、如キ要領ニヨリ年々軍鳩術競技ヲ實施セルニ得ル處極メテ大ナルモノアリ、

一、競技種類並實施要領（昭和八年度横防ニ於テ實施ノモノ）

競技種類	實 施 要 領
	（一）各鳩舎ヨリ収容鳩 三分ノ一（確實ナル鳩數ハ其都度定ム）ヲ 参加セシム
	（二）競翔區間
	前期 A 第二海軍（東十軒）B 團府津（西四十軒）
	後期 A 三崎海岸（南二十軒）B 品川（北四十軒）
	ト本隊

競翔			
間各ニ回宛ノ競翔ヲ行フ			
(四) 委員ハ必要ノ委員附ヲ伴ヒ競翔鳩ヲ放鳩車又ハ汽艇ニテ放鳩地ニ運搬シ規程ニ從ヒ放鳩ス			
(四) 放鳩ハ四回(間隔十分以内)ニ分テ抽籤ニヨリ第一回ヨリ順次ニ行フ			
競技員ハ委員ノ指示ニ從ヒ競翔鳩準備ノ際豫メ回次ノ識別ヲ附スルモノトス			
(五) 競技鳩ニハ総テ信書ヲ付ス			
(六) 信書ハ放鳩回次ヲ表ハス且ツ實用信ト區別スル爲左ノ識別ヲナス			
(七) 鳩舎ニアリテハ各受持軍鳩員ヲシテ呼込マシム	回次	一	
	識別信書両端赤色	信書両端青色	二
	信書両端黒色		三
	他信書一端赤色	他信書一端青色	四

海軍

昭和八年七月 大倉納

	ハ) 委員附ハ各競翔鳩ガ入舎シタル秒時ヲ測定記録ス
舎外飛翔	指定數(各鳩舎共収容鳩數ノ二分一以上トシ競技前其數ヲ決定ス)ヲ出シ約十五分間鳩舎上空飛翔後一斉ニ呼込マシメ入舎成績ヲ審査ス時日ハ前日ノ巡檢後發表スルヲ例トス
信書結着	一) 競技員ニ各信書十通ヲ交付ス競技員ハ規程ニ從ヒ之ヲ鳩ニ結着シ委員ハ其所要秒時ヲ測定記録ス 二) 競技員ニ各信書筒十個ヲ交付ス以下右ニ準ズ
1. 競翔	二 成績調査
一) A、B 各回ハ〇点宛	全点一六〇点
二) A、B 各回毎ニ受持鳩ノ平均經過時ヲ求メ最小ナルモノヲ第一位トシハ〇点ヲ附與シ第二位以下順次五点宛ヲ減ズ	但シ經過時間ハ総鳩中第一着鳩ノ經過時ノ二倍ヲ以テ限度トシ之

ヲ超過スル鳩及矢跡シタル鳩ハ此ノ限度ヲ以テ計算ス

口、舍外飛翔呼込 全点一〇〇点

呼込ノ令ヨリ一分以内ニ入舍セル鳩ヲ〇分トシ一分ヲ超過スル鳩ニ對シテハ每一分以内ニ付一分ヲ與ヘ其合計分時ヲ參加鳩數ヲ以テ除シタル分時ノ最小ナルモノヲ第一位トシ得点一〇〇点ヲ附與シ第二位以下順次五点宛ヲ減ズ

但シ所要時五分ヲ限度トシ之ヲ超過シタルモノハ總テ五分トシテ計算ス

ハ、信書及信書簡結着 全点四〇点

結着所要時(但受持軍鳩員ニ名ノ場合ハ其平均)ヲ求メ結着不良ノモノハ一件ニ就キ各本人平均所要時ヲ加ヘコノ分時ノ最小ナルモノヲ第一位トシ四〇点ヲ附與シ第二位以下二点宛ヲ減ズ

ニ、以上三種ノ得点ヲ統計シ尚前後兩期ノ成績ヲ平均シテ成績ヲ決定ス

三、制令規約

一、呼込軍鳩負ハ制規ノ服裝ヲナシ呼笛竝ニ笛ヲ用フ
 二、呼込用食餌ハ使用セス

ハ、呼込ノ際「トリップ」ノ外蓋ヲ利用スベカラズ

ニ、他鳩舍呼込ノ妨害トナルベキ行爲ヲナスベカラズ

ホ、競翔綜合成績同一ナルトキハ參加鳩數ヲキ鳩舍ヲ上位トス

四、講評並訓示

一、競技ハ適切ニ實施セラレ各員ハ熱心ニ競技ニ從事セリ

二、競翔並舍外飛翔ノ成績ハ何レモ優良ニシテ殊ニ品川當隊間ノ競

翔ニ於テ全鳩ガ分速一ニ料以上ノ成績ヲ以テ歸巢セルハ美事ナリ

三、信書結着ハ一般ニ良好ナルモ時間ニ焦慮セル結果一ニ結着不充

分ナルモノアリシハ遺憾ナリ

要之本競技ハ一般ニ優良ナリ殊ニ第二回競技ハ第一回競技ニ比シ其

(横須賀防備隊)				
信書及信書簡集 着各1個宛(全540)	得点	得点合計 (300)	順位	
所要時 (計)	各一個装着所要時	得点		
11-45.9	0-17.6	38	283	2
9-55	0-14.9	40	265	3
12-43	0-19	34	264	4
11-47.9	0-17.7	36	296	1

一、昭和八年度軍鳩術競技総合成績表(横防)

附

成績一段向上ヲ示セルハ各員努力ノ證左ナリト認ム、
 惟ッニ軍鳩術タルヤ常ニ鳩ノ心理ヲ觀察シ且之ガ取扱ニ慣熟スル
 ヲ要ス、各員ハ通信任務ノ重要性ニ鑑ミ益々研鑽練磨以テ
 斯術ノ發達ヲ期スベシ

昭和八年十一月三十日

横須賀防備隊司令秋山虎六

海軍

昭和八年七月 大倉納

昭和八年度軍鳩競技総合成績表 第一回 七月 施行 第二回 十一月												
競翔 (全点 160)						舍外飛翔呼込 (全点 100)						
第二回 (80)						得点	第一回 (15分)	第二回 (15分)	所要時	得点	第一回	第二回
三崎 (20分)	品川 (35分)	品川 (35分)	所要時 (計)	得点	得点 (計)							
平均 所要時	合 算	平均 所要時	合 算			所要時	所要時	所要時	所要時		所要時	所要時
23-56	869	27-0	1296	50-56	65 140	0-0	0-168	0-168	95	7-10	4-35	
22-3	909	28-45	1207	50-43	70 140	1-32	0-27	1-59	85	5-19	4-36	
20-56	952	27-46	1250	48-42	75 140	0-46	0-10	0-56	90	6-48	5-55	
21-19	943	25-9	1115	46-28	80 160	0-14	0-0	0-14	100	6-48	4-58	

海軍

海軍

昭和八年七月 大倉納

項目所得 鳩舎別	目次時 位	第一回 (80)						得 点
		第=海保 (10料)		園府津 (40料)		所要時 (計)		
		平均 所要時	分 速	平均 所要時	分 速			
		所要時	所要時	所要時	所要時			
日間鳩舎	46	25-22	400	43-57	709	69-19	75	
夜間鳩舎	63	23-37	417	47-0	824	72-37	70	
十號鳩舎	36	19-6	526	57-54	698	77-0	65	
四號鳩舎	27	21-11	452	30-21	1250	51-32	80	

海軍

海軍

昭和八年七月 大倉納

ニ軍鳩術講習始業式ニ際シ

横須賀防備隊司令秋山少將訓示（昭和九、一、一八）

本日ヨリ軍鳩術講習ヲ開始スル。開始ニ當リ一言注意ヲ促シテ置ク。諸子ハ丈夫軍鳩ノ飼育訓練ニ従事シテ來タ者デ從ツテ軍鳩ノ任務ニ関シテハ能ク了解シテ居ルコト、想像スルガ特ニ本講習ヲ行ハルニ當ツテ注意ヲ促シテ置キタイ。軍鳩術ヲ能ク會得スルコトハ我が海軍ノ行動任務上極メテ重要ナル事柄デアル。此ノ成果ヲ擧ゲルニハ御互ニ自己ノ仕事ヨリ理解シテ一番面白ク愉快ノ氣分デアル事が大切デアル。

諸子ハ今迄軍鳩ニ對シ相當經驗ヤ興味ヲ持ツテ居ル事ト思フガ或ハ無電發達ノ爲メニ軍鳩ハ今後不用トナル時機ガ到來スル様ニ考ヘル人ガアルカモ知レナイ。乍然今後ト雖モ軍鳩使用ノ範圍ヲ狭メラレル様ナ不安ハ決シテ無カラウト思フ皆モ承知ノ通り滿洲上海事件等ニ

於テ如何ニ鳩ヲ實用サレタカ又其ノ功績ヲ耳ニスルハ能ク了解出來
 ルト思フ。平タク言ヘバ無電が如何ニ發達シテモ無電ヲ通信出來ナイ
 範圍が必ズ残ル、又科學ノ進步ニ依ツテ出來タ巧妙ノモノニ對シテハ
 必ズ之ヲ逆用シ妨害スル機關が現ハレル之が物事發達自然ノ勢デアル
 斯ク考ヘル時ハ如何ニ無電が發達シテモ之ノミニ頼ル事、出來ナイ場合
 が必ズアル、現ニ皆モ知ル如ク無電封止ノ規定ニヨリ無電ノ使用ヲ禁止
 サル場合が演習及戰時ハ多イ、從ツテ無電ノ發達ハ軍鳩使用區域
 ヲ狭メルコトハナイ寧ロ今後軍鳩使用が必ズ増ヘル事ト思フ、畢竟
 種々ノ機械が發達スルニ連レテ要求が大キナリ行動通信範圍が
 延ビテ來ル、之ニ關聯シテ戰鬪動作が廣リナリ複雑ニナツテ來ル
 此時ニ折角ノ無電が思フ様ニ使ヘナイ、斯コナレバ鳩ノ使用範圍が廣
 クナル許リデナク鳩デナケレバナラヌト云フ場合が出來テ來ル、ソコニ
 軍鳩通信が極メテ必要デアル、ソレヲ是カラ皆が擔當スルノデ將來ハ

益々軍人トシテ巾が利ク譯デ大イニ努カスベキデアル。然ルニ一方ニ於テ夫程重要ノ鳩ヲ本當ニ飼育スル専門ノ人が極メテ少ナイ、當局ニ於テモ之ヲ心配サレテ元々航空隊ニ在ッタノが航空機無電發達ノ爲折角ノ研究モ熱ガ冷メカ、ソク時先覽者ニ依リ何處ガ飼育所トシテ一番適當デアルカ？之ハ防備隊ガ良カラウト着目シテ昭和四年ニ研究基礎機關ヲ防備隊ニ移サレテ以來使用法其ノ他ニ就テ石井特務中尉等ガ一生懸命ニ努カシタ結果斯術ハ一段ト向上進歩ヲ遂ゲ特種通信機關トシテ大ニ信頼サレル様ニナッタ

會々滿洲上海事変ニ於テ陸軍ガ實戰ニ使用シ大ニ功績ヲ擧ゲタ結果益々鳩ノ必要ヲ認メラレ我海軍ニ於テモ之ニ從事スル人コ一層要求スル様ニナッタ、此機會ニ諸子ハ選バレテ講習員トシテ召集サレ是カラ伸ビテ行ク鳩ノ研究ニ中心トナツテヤラネバナラヌ、

故ニ諸子ハ軍鳩通信ノ重要性ニ鑑ミ倍々努カシテ將來ノ發展ニ貢

献スルコトヲ心機ケネバナラヌ、

尚付ケ加ヘルガ総テノ研究訓練等ニハ異常ノ努力ヲ要スルモノデ頭ノ良否許リテハナイ。努力ニ依テ其成果が顕ハレルモノデアル。況シテ諸子ノ是カラヤル事ハ相手が生物デアルカラ自分ノ精神ヲ打込ニテ怠ラズヤラバ成果が擧ガライ。鳩ノ仕事ハ頭ヨリ精神努力デアル。鳩ト共ニ寝、鳩ト共ニ覺メルト云フ氣分が大切デアル、

本講習中教官教員等ヨリ種々ノ談ガアルト思フガソレ丈デハ充分デナイ私ノ希望スル所ハ諸子が各隊ニ歸ツテカラ自分ノ心ト鳩ノ心ヲ一緒ニスルコトヲ忘レスニヤツテ貰ヒタイ

尚折角諸子ハ各地方ヨリ参集シタ者デアツテ本講習中ニ教官教員ノ談ヲ聴ク丈デナリ實際ニ関シテ皆が直接實驗シタ事ヲ談ジ合フ事が大切デアル。即チ休憩時間ニデモ雑談的ニ經驗談ヲ談ジ合フ事ハ興味ガ湧キ計リテナリ貴重ナル意義ヲ有スルモノデアル。此機會

ニ於テ奮勵努力以テ本講習ヲ最モ有意義ニ終ランコトヲ希
望スル次第デアル、

訓示終

海軍

昭和八年七月 大倉納

第十一章 軍鳩品種改善

多年ニ亘ル我海軍、實驗ニ依レバ部内ニ於ケル軍鳩品種改善ニ關シ次、如キ結果ヲ得タリ

一 訓練ニヨル不良鳩ノ淘汰

軍鳩ハ巢立後飛翔力ヲ得ルニ至ルヤ其程度ニ應シ常時放鳩訓練又ハ通信ニ使役セラレ比間相當ニ不良鳩ノ淘汰ヲ行ハル、モノナリ、然レドモ之ヲ充分ニ實施スル爲ニ多大ノ經費ヲ要スルヲ以テコレノミニ依ル品種改良ハ實施困難ナリ

二 優良種鳩ニ依ル蕃殖

本項ハ最理想トスル所ナルモ第一項ト關聯シ現狀ニアリテハ種鳩ノ嚴選ニ對シ遺憾ノ点アルノミアラズ通信鳩舎ニアリテハ其本務ノ達成上蕃殖ニ制限ヲ附スル止ムナキニ至ルモノナリ

三 民間仔鳩ノ購入

第一第二項、缺陷ヲ補填スルタメ民間ヨリ優良仔鳩ヲ購入シ其成鳩(ニ歳以上ノ鳩)トナルニ及ビ在來鳩ト交配シ血液、更新ニ依リ品種、向上ヲ計ルハ現状ニ於ケル最良ノ對策ニシテ從來ツ、方法ニヨリ極メテ良好ナル成績ヲ奏ゲツ、アリ
購入ノ際仔鳩ニ代フルニ優良成鳩種鳩ヲ以テスレバ一層効果的ナルモ種鳩ハ頗ル高價ナルヲ以テ仔鳩ヲ購入スルヲ得策トスルモ、ナリ

四、飼育管理法、改善ニ依ル鳩質ノ向上

鳩舎施設、飼糧、運動等、改善ニ依リ鳩体各部ノ發達ヲ促スコトハ軍鳩品種改善上緊要ノ事項ニシテ我海軍ニ於テハ特ニ此点ニ留意シ效果ヲ收メツ、アリ

第十二章 鳩ト氣象ト、關係研究

(註) 本記事ハ昭和五年當時横空司令原五郎大佐、研

究執筆セラレタルモノ、再録ナリ(註記アリハ備考、責トス)

凡萬物、豫知ハ科學、不可解、第六感(暫ク称ス)統計、
 三大系統ニヨリ求ムコトヲ得ベレ當横須賀地方ハ觀測所
 ニ依ル天氣豫報即ケ科學系統ノモノニ依リ之ヲ知ルノミナルヲ
 以テ今回第六感ト統計ノ系統ヨリ之ヲ得ベク之ヲ適當ナルモ
 ノヲ物色シタルニ爾來動物ガ天氣ニ對スル頗ル鋭敏ナルハ蛇、蟻
 等古來傳ヘラレアルモノ、多數アルニ鑑ミ幸當隊ニ第六
 感軍鳩ヲ飼育シアルヲ以テ之ニヨリ約ニヶ月間ニ亘リ軍鳩ノ
 飛翔具合及狀態等ヲ觀察シ氣象ヲ豫測セシメシニ天
 氣豫測上相當資料ヲ得タルヲ以テ茲ニ氣象ガ軍鳩ニ及
 ス影響ヲ述ベム(参考ニ資料セントス)

以上研究ハ將來飛行基地等天氣豫報ヲ受ルニ不充分ナル地ニ於テ軍鳩ヲ携帶シ之ヲ行ヒ以テ飛行上好參考資料ヲ得ントスルニ外ナラズ

尚同時ニ軍鳩員ヲシテ横須賀地方天界ノ変化ニ依ル天氣豫知ヲモ行ハシメタル結果ヲ附記ス

一、天候良好ナル場合

未明ヨリ鳩舎内ニアリテゴロコト騒ギ出、舎裝置ヲ開ケ、喜ンデ飛び出シ一直線ニ高度ニ百米位、上空ニ上リ大なる円ヲ以テ旋廻シ數分ノ後次第ニ低リ鳩舎ノ上空ヲ正規ノ旋廻飛行ヲ行ヒ時々上下運動ヲ行ヒ飛翔振最モヨシ給餌ノ際騒

二、天候変化(悪化)ノ場合

常ヨリ靜カニシテ出、舎ヲ好ミズ巢房内ニアリテハ鳩体羽毛ヲ嘴ニテツキ鳩体ノ氣象ノ変化ヲ豫感セルガ如ク羽ニ油ヲ塗ル、

雌雄ハ自己巢房内ニアリテ何トナク元氣ナク食欲減シ飛翔ノ際ハ低クハズ不規則ノ圓ヲ以テ飛翔振元氣ナク少シモ早ク入舎シタキ様ニ思ハル

ハ天候回復ニ向フ時

次第ニ元氣ヲ増シ鳩舎内ニ於テ上下左右ニ飛ブ羽毛乾燥シ出舎ノ場合喜ンデ飛び出デ降雨中ニモ相當高度ヲ取リ大ナル円ヲ以テ旋廻シ上下運動多シ飛翔度早ク羽音高シ食欲ヲ増ス

ニ風向變ズル場合

風向ニ向ヒ旋廻飛翔スル場合ハ風向ハ之ト正反對ニ變ズ風向變ゼザル場合ハ風ニ流サレツ鳩舎ヲ中心ニ旋廻飛翔ス要スルニ風向ニ向ヒ飛翔スル時ハ風ハ反對方向ノ風ニ變ズホ五十軒以上居ル場所ニ於テ鳩ノ氣象ニ對スル影響

(一) 天候悪化、場合、状態

自己帰舎ニ帰舎、場合視界良好ニテ日没時迄ニ相當時間
アルモ帰舎率悪ニキ時ハ天候敷時間中ニ雨又ハ雷雨、驟
雨ト化ス、日没時放鳩ニ於テモ同様帰舎率悪ニキ時ハ天
候悪化、兆ナリ、鳩ハ天候ヲ豫知シテ鳩舎同形ノ建物又ハ樹
木等ニより已、危険ヲ防止シ安全ヲ期スルモノ、如シ

(二) 天候良好ニ向フ時、状態

自己鳩舎ニ帰舎、場合降雨視界不良ナルモ帰舎率ヨク經
過時モ早キ時ハ天候敷時間中ニ回復ス、鳩体ニ及ボス第六感
作用ニより風雨中ニテ次第ニ天候良クナリ安全ナルヲ
豫知スルモノ、如シ

以上述べタルモノニ依ルニヶ月間ノ成績

海軍

昭和八年七月 大倉納

月	昭和五年	九月	十月
予報ト 致シタル 場合ト合	一五	二二	二二
予報ト 致セザル 場合ト合	四	三	三
予報ト 致シタル 場合ト合	三	二	二
予報ト 致セザル 場合ト合	四	四	四

ト、之ヲ要スニ日々氣圧關係ヲ總合シテ二月間研究ノ結果鵬ハ
氣圧ノ高低ニヨリ高度及ビ飛翔振旋廻度ヲ異ニスルコトヲ發
見セリ、尚研究ヲ連續シ正確ナル資料ヲ得ントス

附

横須賀地方天界ノ変化ニ依ル天氣豫報

不天氣良好ナル場合

南西方面視界良好ニシテ富士山、大山ヨリ見エ北東方面ニ煙霧
アリ、上空ニハ卷雲少シアリテ北東微風、太陽ハ夕焼紅ナリ
又天氣変化(悪化)場合

視界割合ニ廣キニ南西方ニ羊雲現レ太陽ノ光線ハ羊雲ニ

海軍

昭和八年七月 大倉納

映ジ朝焼紅色ヲ呈ス風ハ南東方面ノモノエアリテハ北ニ変ジ南
西方面ノモノエアリテハ次第ニ北ニ変ズ

魚高ク飛ビ上リ小虫多ク飛ブ山近ク見ユ

ハ天候漸復ニ向フ時

視界次第ニ良好トナリ西方乱雲切間ヲ生ジ次第ニ
かたまり愈ト化ス下層雲行早ク風向次第ニ南東又
ハ南西ニ変ス夕映紅ナリ

ニ風向変ズル場合

視界割合ニ狭シニシテ日出頃ヨリどんより雲^現概シ北東微
風朝富士山良ク見ユル時ハ相當風強クナル
日睥現ハルモ風向変ズレバ天氣変ラズ

第十三章 害鳥駆除法

海軍

昭和八年七月 大倉納

毎年初秋ヨリ晩春ニ至ル間絶ヘズ鳩舎上空ニ襲來スル害鳥
 (鷹一隼、類)ノ爲各飼育廳ニ於テ年々少ナカラヌ軍鳩ヲ
 喪失シ之ガ對策ニ腐心シツ、アリシ處昭和八年度初頭
 横防ニ獵銃一挺定數設置セラル、ニ及ビ試験的ニ害鳥
 駆除ニ備ヘシニ其、効果顯著ナルヲ確認セリ

即チ害鳥襲來、際從來小銃空砲ヲ放ツテ威嚇セルニ初
 度ニ於テハ相當効果アルモ次第ニ之ニ慣レテ遂ニ空砲ヲ連
 發スルモ平然トシテ鳩舎上空ニ猛威ヲ振ヒ銃聲ヲ傍ニ身
 振ヒシツ、軍鳩ヲ奪ヒ去リ軍鳩員ハ之ヲ目撃シシツ、奈何と
 スベカラザル狀況ナリキ

斯クシテ舍外飛翔中ノ軍鳩喪失ハ横防ノミニテモ一年間
 二十數羽ヲ算スルヲ常トセリ

海軍

昭和八年七月 大倉納

斯ル場合飛翔中、鳩ニ對シ急速呼込等、手段ヲ講ズルコトハ
勿論ナルモ既ニ恐怖ニ満タル鳩ノ一部ハ狼狽シテ遂ニ猛鳥
、罟ニ陥ルモ、ナリ

然ルニ獵銃(實包)ヲ放ツ時ハ流石、猛鳥モ倉惶トシテ遁之シ
暫ク附近ニ次々ヲ現ハサルヲ例トス

以上、見地ヨリ各飼育廳ニ害鳥駆除用トシテ獵銃ヲ準備スノ
極メテ必要ナルヲ感ズ

附、横須賀防備隊内獵銃取扱規程

昭和八年五月二十日

横須賀防備隊司令

獵銃取扱規程ヲ左ノ通り定ム

第一條 獵銃使用ノ目的ハ軍鳩ニ毀害ヲ及ボス害鳥ヲ駆除スルニアリ
第二條 獵銃使用ニ際シハ常ニ細心注意ヲ拂ヒ絶對ニ危害ヲキリ期
スベシ

第三條 獵銃並附屬品取扱保管ハ軍鳩部員ノ任トス

第四條 獵銃ハ常ニ鳩舎内定所ニ格納ス

第五條 獵銃用彈藥ハ筐内ニ收メ黒色火藥庫内ニ格納ス

但シ應急用トシテ十發以内ニ限リ筐内ニ收メ鎖鑰
ヲ附シ鳩舎定所ニ格納スルコトヲ得

第六條 彈藥筐、鍵ハ鍵袋ニ收メ在隊先任軍鳩員之ガ
保管、責ニ任ズ

海 軍

昭和八年七月 大倉納

第七條

獵銃取扱者ハ之ガ操作ニ習熟スルヲ要ス

第八條

獵銃射撃ハ取扱者(又ハ特ニ指定セラレタル者)ニ限ル

第九條

獵銃射撃ヲ行ハントスル時ハ必ず當直將校ノ許可ヲ得ルモノトス

第十條

當直將校ハ獵銃射撃ヲ許可スルニ先クテ危險性

有無ヲ調査シ號音ヲ待テニ次テ退却ヲ令シ附近

屋外ニ在ルモノヲシテ一時屋内又ハ底下ニ退避セシメタ

ル後號音「G」ヲ發シテ射撃ヲ許可ス

第十一條

獵銃射撃ヲ一時中止セシメントスル時ハ當直將校ハ

打方待テヲ要ス

第十二條

獵銃射撃中淺水隊兵舎屋上ニハ旗ヲ掲ゲ

第十三條

隊内ニ於ケル獵銃射撃場ヲ淺水隊兵舎屋上トシ

射線ヲ附圖ノ如ク定ム

海 軍

昭和八年七月 大倉納

第十四條

獵銃射撃ハ必ず附屬ニ依リ指定以上ノ仰角ニ

於テ行フベシ

第十五條

射撃ノ必要ナキニ至ラハ當直將校ハ號令ヲ打方止セヲ

令ス

第十六條

射撃者ハ射撃終了後直ニ裝填セル彈藥ヲ

抜キ出シ當直將校ノ点檢ヲ受ケ終テ定所ニ格納スベシ

0894

附

録

海

軍

昭和八年七月 大倉精

附録 海軍々鳩實驗研究經過

昭和七年

四月二日官房第一三三號訓令ニ基キ海軍々鳩實驗研究ヲ繼續スルコトナルニ本項記事ハ軍鳩通信參考書ニ記載スルコト以テ省略ス

五月二十三日内令第百七十號ヲ以テ昭和四年内令第百號ニ依テ須賀防備隊ニ臨時増置中ノ次ノ人員ヲ減ゼル(別紙第一)

少佐大尉 隊附 一人

特務中尉 兵曹長 隊附 一人

之ヲ以テ我海軍々鳩實驗研究從事者(准士官以上ハ悉ク他ニ本務ヲ有スルモノハミトナル

六月横防軍鳩基礎期間ヨリ呉防舞防鎮防ニ軍鳩八十羽ヲ補給セリ

海軍

昭和八年七月 大倉納

傳書鳩
展覽會

十月十六日

東京學習院ニ於テ同院傳書鳩研究会出催傳書鳩

展覽會アリ、横防ヨリ夜間鳩ニ羽(各別ニ目錄ヲ附ス)出

竝ニ各放鳩用トシテ別ニ百五十羽ノ鳩ヲ参加セシメンニ當日ハ

雨アリ他ノ参加者ハ殆ンド放鳩ヲ躊躇ニ獨リ我海軍ノミ雨中

ニ各放鳩ヲ實施シ海軍獨特ノ養成法ニ依リ養成セラレ

タル強力鳩ニ、價値ヲ示セリ

チテリダ
發生

十二月

初旬ヨリ馬防鳩舎ニチテリヤ發生シ防燕ニ如カタルモ飼育

鳩數(八一羽)ノ約七割ヲ喪失シテ月後ニ終熄セリ(本文第九章)

昭和八年

國事多端際民間飼育者ヨリ我が海軍ニ次、他キ鳩寄贈者アリ

民間鳩
寄贈

一月十四日 成鳩三十羽

寄贈者東京市足立区千住河原町七七番地 山田稔壽

一月二十二日 成鳩八十羽

海 軍

昭和八年七月 大倉納

昭和八年七月 大倉納

海 軍

軍鳩 補給 分譲

民間鳩 購入

献納鳩

講演官

派遣

680 新訓令

寄贈者 大政市東三村木町三七塚本佐七

一月横防ヨリ佐防へ軍鳩二十羽補給

二月練習艦隊司令官百武中將、要望ニ依リ横防ヨリ八雲へ

軍鳩二十羽分譲

三月横防ニ於テ大政地方ヨリ民間仔鳩五十羽購入(七年度豫算、

價格一羽ニ付三五円)

三月日本傳書鳩協會長男島即徳川義恕氏ヨリ海軍ニ於ケル

軍鳩充實ノ主旨ヲ以テ金壹千三拾円貳拾錢寄附サル

(別紙第七)

四月二十八日東京新宿白十字ニ於テ東京農業大學主催

傳書鳩ニ對スル懇親會ニ海軍側講演官トシテ横防

石井特務出席、夜間鳩養成法ニ就キ講演ヲ行ヒタリ。

五月五日官房第二〇七號(別紙第三)發セラレタルヲ以テ新ニ